名前　保科　貫太

●シーン設定

廃棄デニムを用いたマスク付きの衣料を。

●デザインのポイント

「どこに」

全体に。

「どのように」

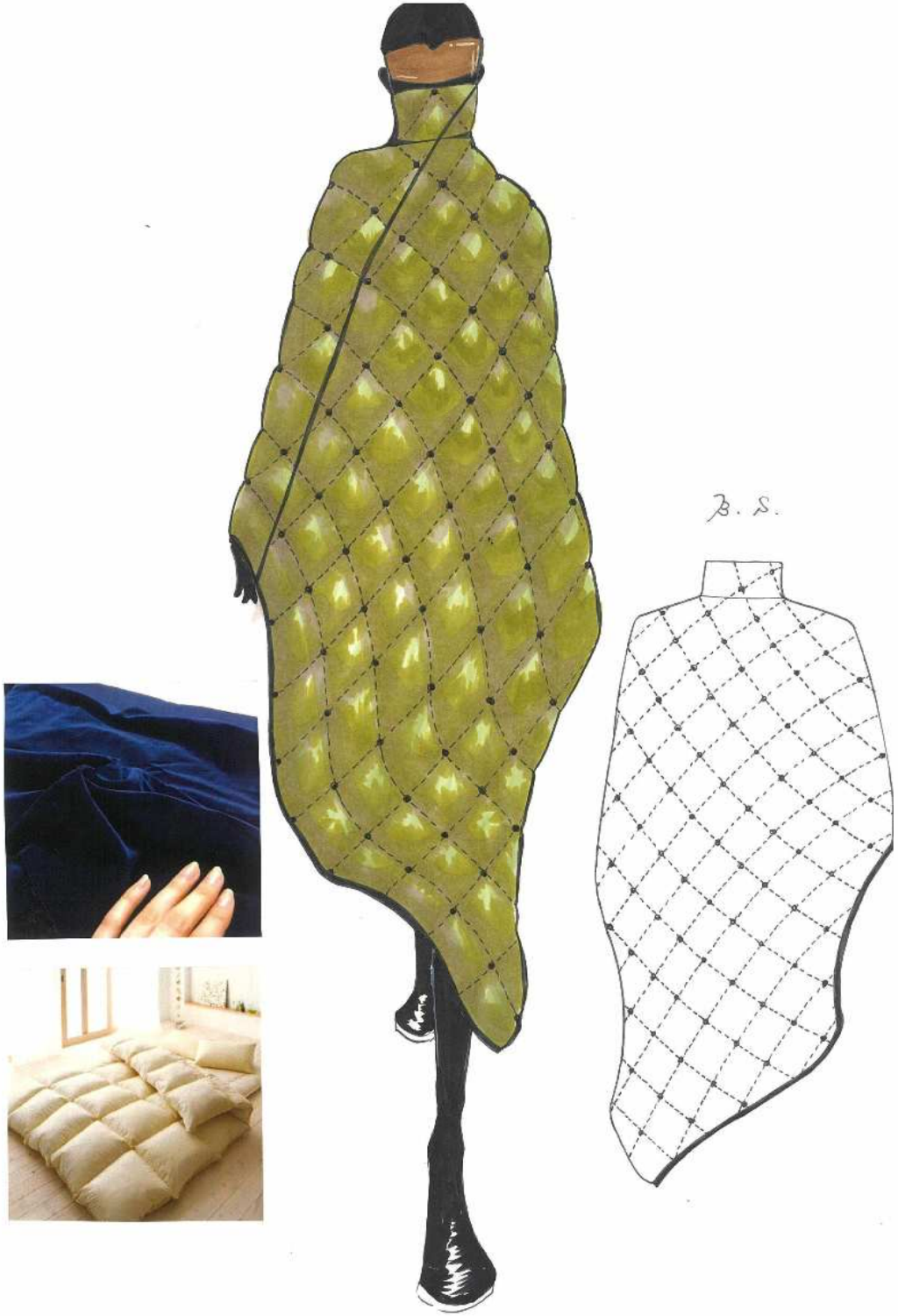
切り替えとして。

●素材

デニム

●アピールポイント

デニム本来の無骨さからイメージを変える衣料を。



名前　松田　瑠衣

●シーン設定

コロナウイルスが流行する前は部屋着から他の衣類に着がえてコンビニやスーパーへ出かけていたが、そのまま出かけても人が出歩いていなかったり目をきにしなくなった。起きてすぐ出かけられる様な恰好。

●デザインのポイント

「どこに」

布とんや寝ぶくろをイメージしてシルエットに表現してみました。斜めがけボタンで着脱が楽チン。

「どのように」

生地や色あいに包み込んでくれる様な暖かさをチョイスしました。春の木漏れ日をイメージさせる、平和な色です。

●素材

コーデュロイ

●アピールポイント

コロナウイルスから身を守ってくれる様な形、色、マテリアル加工を考えました。

名前　KOH WAN JOE

●シーン設定

コロナ禍の前に外的の方が気になり、買い物の大好きな女性がコロナ禍で自分の体が何よりも大切だということを気づき、健康管理を重視するようになりました。

●デザインのポイント

「どこに」

キリスト教聖書の御言葉からインスピレーションを受けて、「一つのからだにたくさんの肢体がある」ということを表す為、生地で体の各部位の名前をロゴで表現します。「それらの肢体が皆同じ働きをしてはいないように」というのを表す為、全部のパーツを別々にします。

「どのように」

端切れを使い、沢山のロゴを作ります。全部のパーツを合体したら、一つの服になります。解体してパーツの位置が分からなくなる可能性があるため、服のパーツが各部位にある位置にしたりします。例えば肩のところに shoulder というパーツにします。

●素材

コットン、シオン、デニム

●アピールポイント

体を大切にすることを伝えたいため、各部位をロゴにし、全部別々のパーツにします。

名前　水嶋　万里子

●シーン設定

マスクをするようになって、素顔を見せることが怖くなった。

●デザインのポイント

「どこに」

ペストマスクをイメージしたフード部分やグローブにしました。

「どのように」

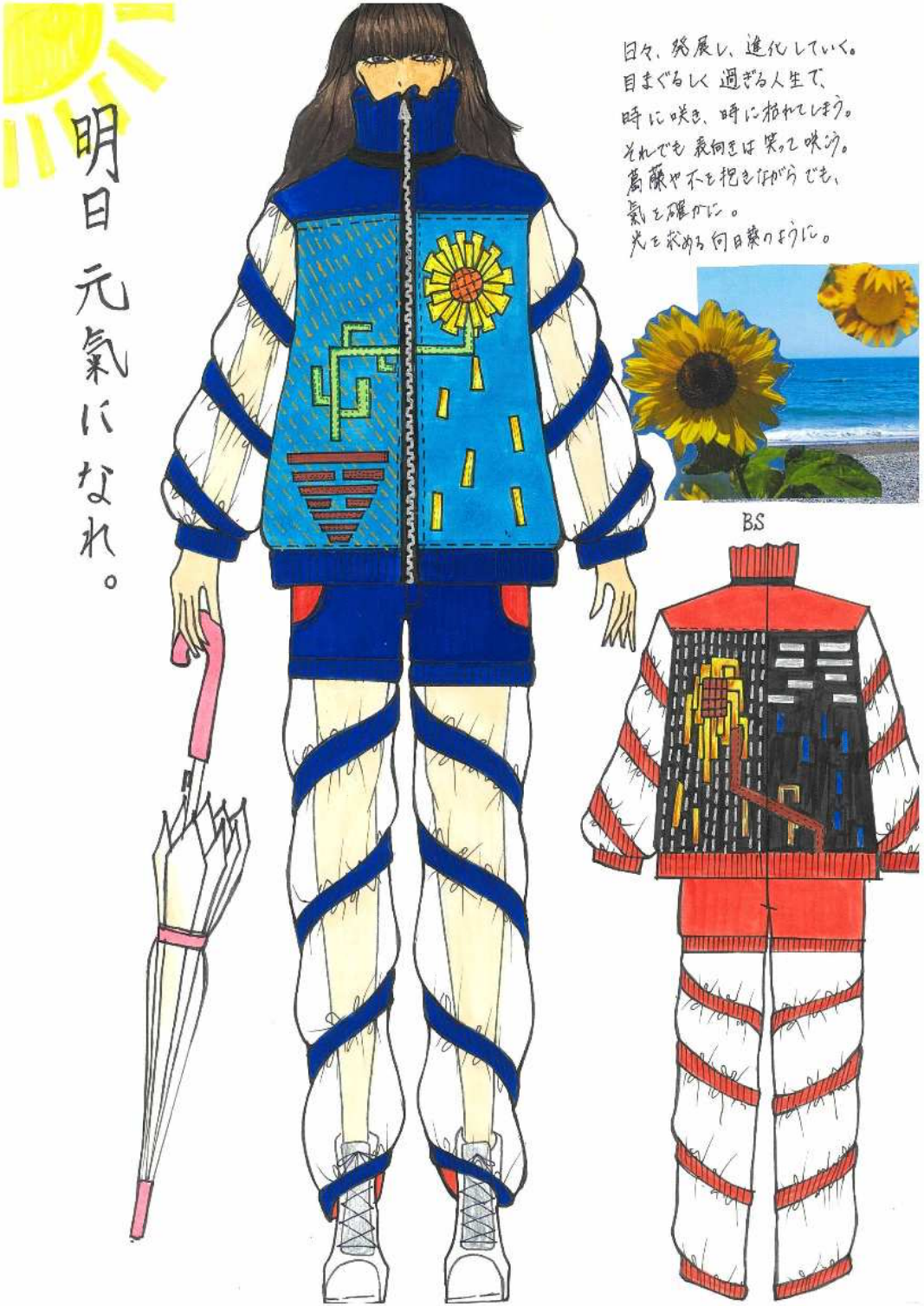
露出を少なくし、防護することと、外出しなくなったことへのイメージです。

●素材

ポリエステル

●アピールポイント

現代の防護服と昔の防護服を合わせて不気味な雰囲気になるようにしました。



名前　川元　亜美

●シーン設定

コロナのパンデミックを経験し、氣を病んでしまうことがありました。明るいファッションで乗り越えようと思ったりしたこともありましたが、どこかぬぐえない気持ちが残ることもあり決して楽な気持にすぐになるということはありませんでした。けど、ファッションは好き。そんな複雑な変化。

●デザインのポイント

「どこに」

前身：大きく咲く向日葵。沢山の光をあびて元氣な表情。（左胸前）
後身：下を向き、垂れ下がっている向日葵。気持ちは沈み気味。（左胸後）
前・後身共にココロのある心臓の位置に向日葵をデザイン。

「どのように」

前・後身共にステッチ・パッチワークでデザイン。パンツや袖の渦はいろんな感情がろ過され、新しい生活に慣れていくといいな…という思いをクリア素材と結び周りながらデザインして表現しました。

●素材

リブニット、ナイロン、ビニル、ポリエステル、綿

●アピールポイント

何か抱えてる人や日々、悩む人へ、“明日元氣になれ”。そしてマスクなしで心から笑い合える日がこれから訪れますように。

名前　菅野　慈奈

●シーン設定

スマートウェアやデジタル化をイメージしたデザイン。

●デザインのポイント

「どこに」

服全体にデジタル特有の画質感などを表現したいと思います。

「どのように」

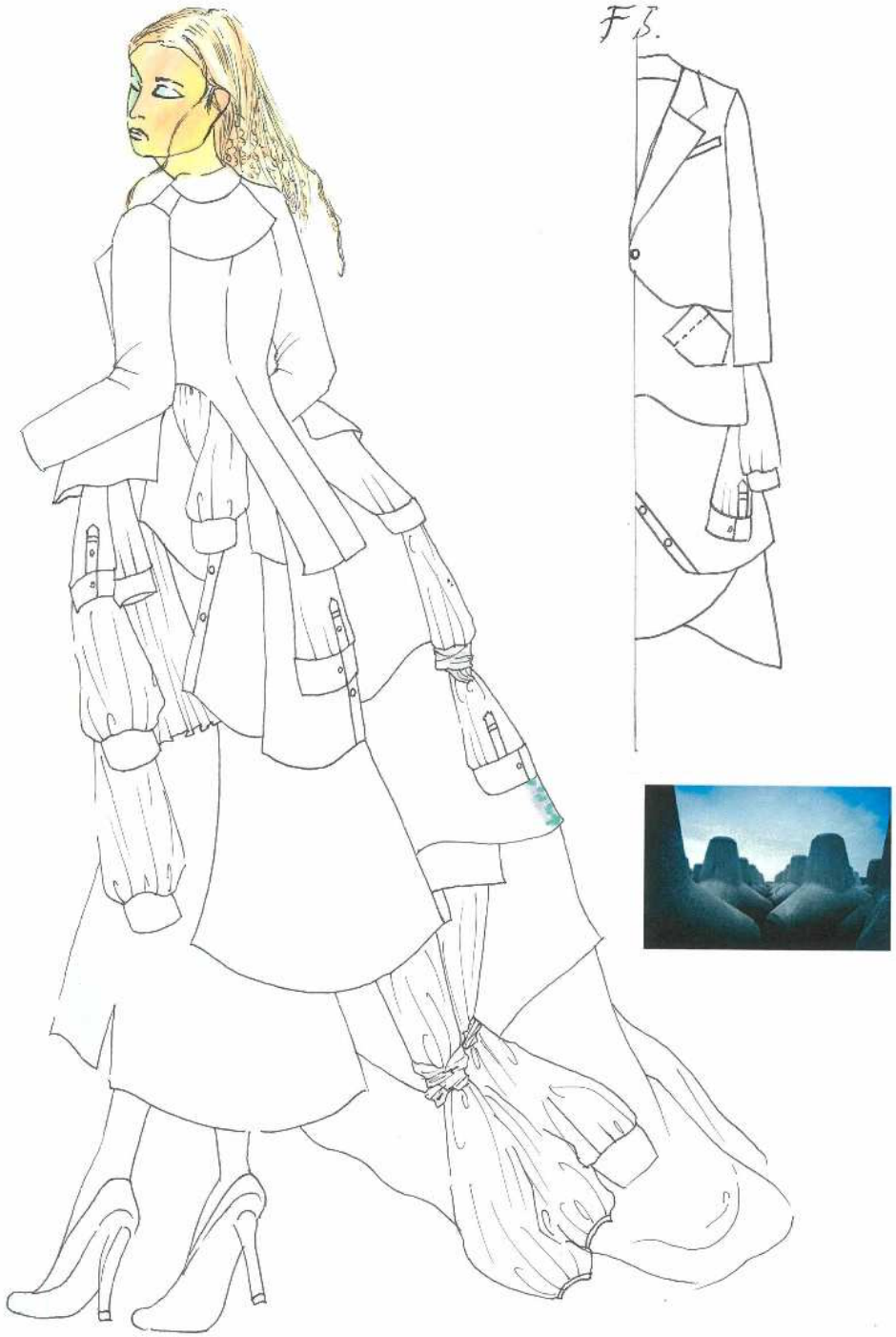
ヨーヨーキルトの技法を使って立体的にドット柄のモザイクを表現し、デジタルようそを強くしたい。

●素材

綿、オーガンジー、ニット（カットソー）

●アピールポイント

QR コードになるモザイク柄のようなデジタル特有のカラー画質感をオリジナルにデザインプリントにて表現。花の空間をモチーフにヨーヨーキルトを使って２D から３D へ変化をもたらす。



名前　陳　琪霖

●シーン設定

日常を超えた変わった宴会などのシーンで着用させるイメージです。

●デザインのポイント

「どこに」

全体のドレスにシャツの残布を使用して、袖、衿、身頃などをバラバラにして再構築、積み重ねなどのことでデザインしました。

「どのように」

使えなくなった布、シャツなどの残布を積み重ねでデザインしてみました。

●素材

シャツの古着、コットン、ポリエステルなど

●アピールポイント

残布を再使用することであざやかで、普段のイメージと違う宴会服をデザインしてみました。

名前　青木　武蔵

●シーン設定

テクノロジーの進化により私たちの生活とインターネットなどデジタルの世界がより近くなった。また、パンデミックにより働き方も変化し、場所、時間を選ばず、多様化した働き方を選べるようになった。“ノマド”と呼ばれる働き方にフォーカスした。

●デザインのポイント

「どこに」

遊牧民をテーマにした、フォークロアテイストのデザイン。

「どのように」

デジタルをイメージしたオリジナルプリントの生地を使用。

●素材

デニム、ローン、サテン

●アピールポイント

自由を謳歌する現代の遊牧民を表現した、開放的なタウンウェア。

名前　川本　淳

●シーン設定

SDGｓやサスティナブルのような地球環境に配慮したものづくりという点。

●デザインのポイント

「どこに」

ヒラヒラモチーフ

「どのように」

三角形・四角形に裁断することで無駄をなくす。
縁処理のいらないＴシャツを使用。

●素材

綿、ポリエステルなど

●アピールポイント

海の生き物の“ウミウシ”をインスピレーションに、ひらひらとした軽やかさのあるものを制作します。

名前　野元　嗣英

●シーン設定

外出の規制が強まることにより、自然による癒しを人々は求めるようになり、ファッションと自然の親和性が求められるようになった。

●デザインのポイント

「どこに」

ジャケット、デニム、ニット、フリンジ

「どのように」

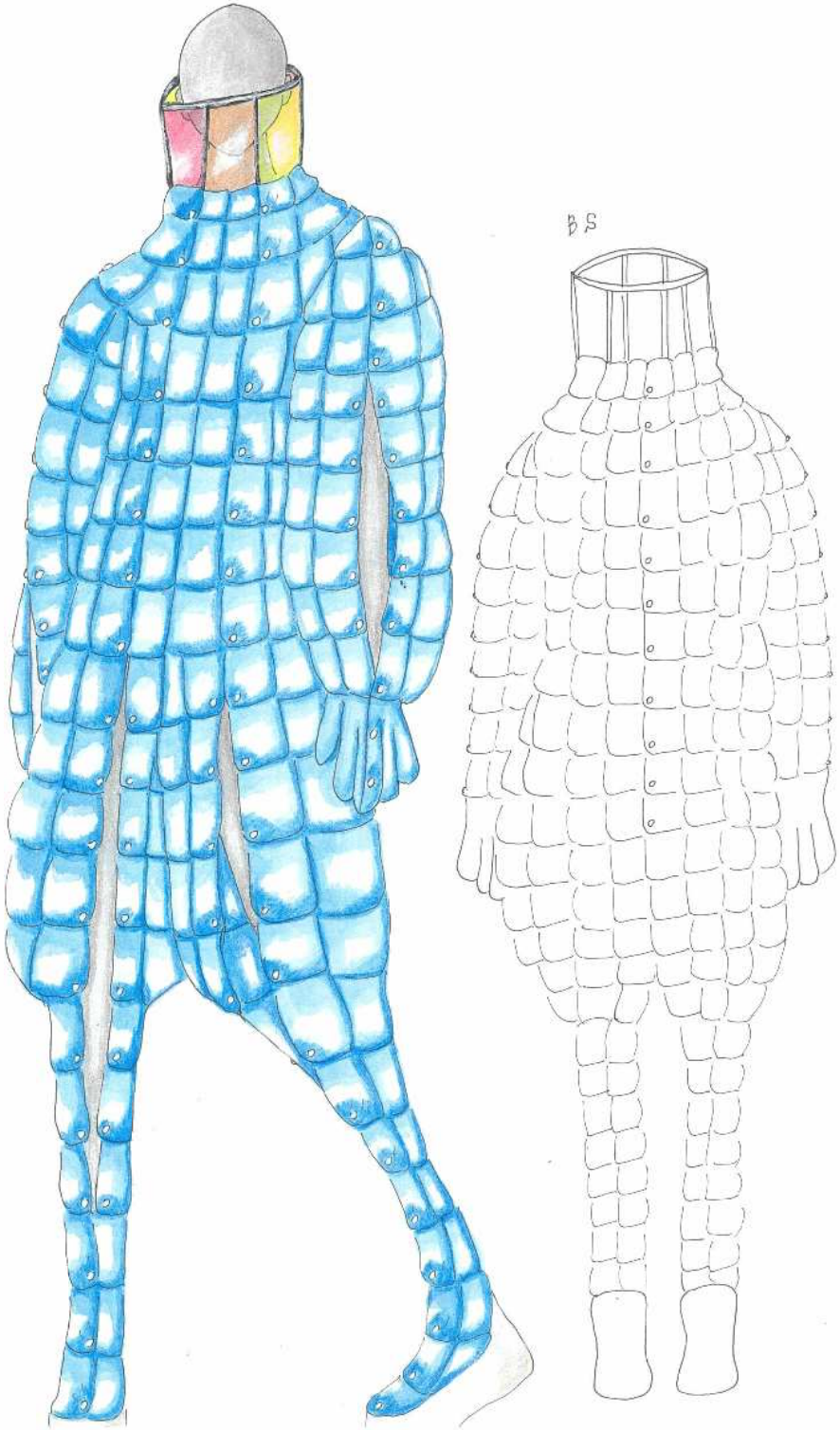
ジャケットには優しい感じの雰囲気がただよう植物のイラストを。フリンジで有機的なウィリアム・モリスの花の表現を心みます。

●素材

コットン、ナイロン、ニット

●アピールポイント

ウィリアム・モリスの作品とリアルクローズの親和



名前　石川　歩実

●シーン設定

新型コロナウイルスの流行により、服にも『防護機能』が求められるようになった。さらに、『快適』で『デザイン性』が高く『サスティナブル』なものでなくてはならない。そのような服に求められる概念を盛り込んだ冬のレディースウェアをデザインしました。

●デザインのポイント

「どこに」

生地加工、素材、デザイン

「どのように」

『快適』キルティング加工により保温性が高く、ふかふかでそのまま寝ることもできる。スナップボタンを開けて通気性を高められる。
『防護機能』手足まで覆うデザインで接触を減らす。枠にカラーのフィルムを貼り付けてフェイスシールドようにした。
『サスティナブル』繊維製品やペットボトル等を原料として作られる再生繊維で耐久性・伸縮性・速乾性に優れ、丸洗いもできるで衛生面にも配慮できる。

●素材

リサイクルポリエステル

●アピールポイント

未来を想像できるような先駆的デザインで、コロナ後にある明るい未来を表現しました。宇宙服や甲冑をイメージした防護のデザインにしました。

名前　米田　くるみ

●シーン設定

コロナ禍で減ってしまったおでかけなどおしゃれすることも減ってしまいましたが普段を少し格上げするおしゃれ着を提案します。

●デザインのポイント

「どこに」

テキスタイルを。

「どのように」

大ぶりな花柄とカラーリングでとびきりＰＯＰで気分も心も上がるようなデザイン。世界的に環境破壊などがありサスティナブルは欠かせない要素になっています。

●素材

再生素材（ペットボトル等）を使用しサスティナブルを意識しました。

●アピールポイント

花柄はペットボトルの底がお花のような形でそこからインスピレーションを受けてデザインしました。

名前　年永　大

●シーン設定

閉塞感のある世の中で気分を明るくする。着ている人見てる人を幸せな気持ちにさせる様な服。

●デザインのポイント

「どこに」

服の全体的に。

「どのように」

ボタンを利用し柄の配置や量を操作し変化をつける事で気分を上げる事が出来る。

●素材

ポリエステル

●アピールポイント

柄や色を鮮やかに、パッチワークで柔らかさを持たせる女性らしさを表現。

名前　櫻井　由衣

●シーン設定

制限が緩和された今でも、コロナ禍で自宅で過ごす時間が増えた事から、着やすさや着心地を求めるようになった。

●デザインのポイント

「どこに」

全体のデザイン、柄。

「どのように」

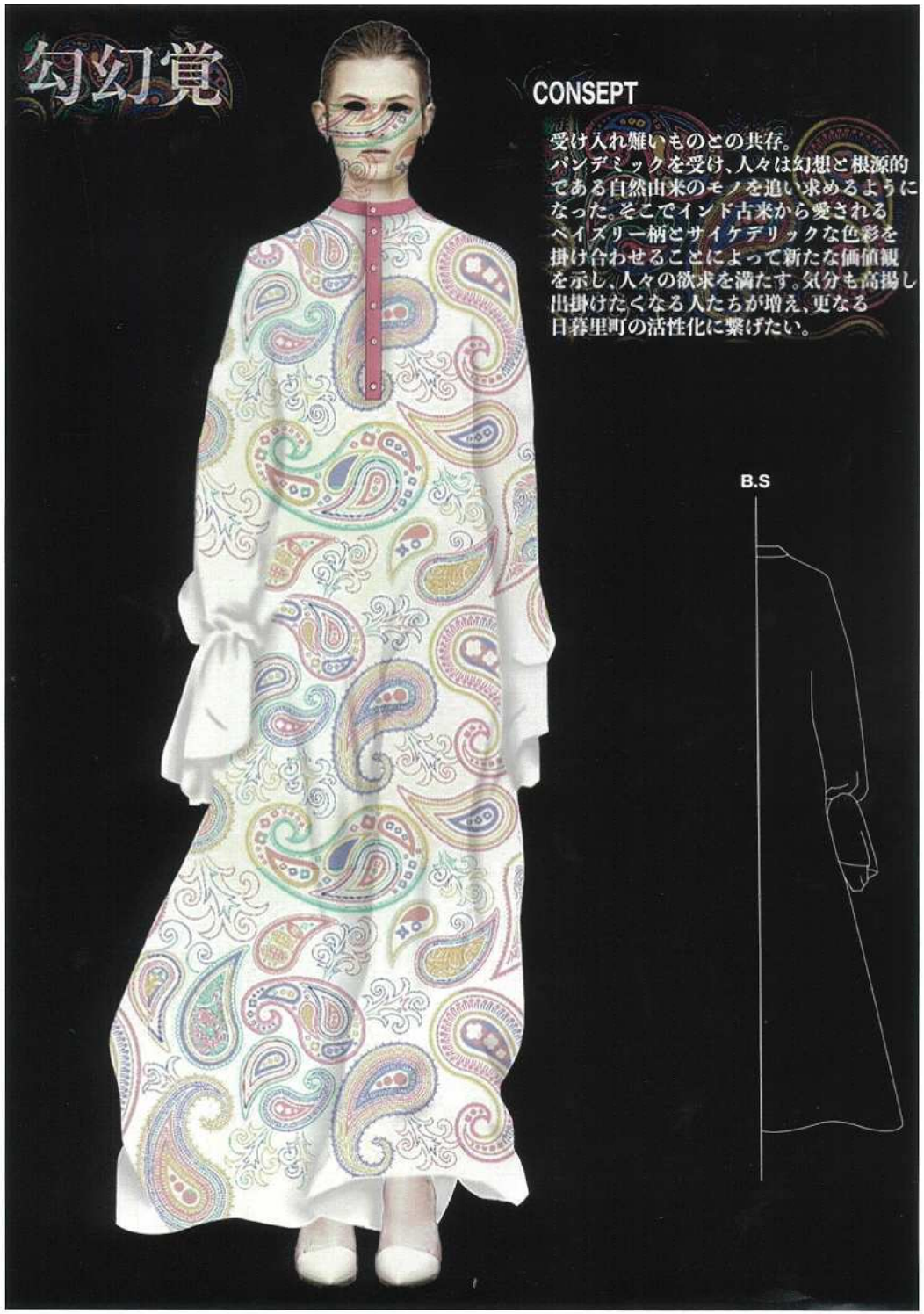
シルエットはゆったりとオーバーで着やすさを意識したオールインワン。植物の病気で現れるまだらな斑点模様を生地に取り入れ、ウイルスに対してポジティブにとらえるというマインドを表現。

●素材

綿麻素材

●アピールポイント

着やすさと個性を考えたシルエット。
オリジナルマテリアル。



名前　杉山　隼

●シーン設定

受け入れ難いものとの共存。
パンデミックを受け、人々は幻想と根元的である自然由来のモノを追い求めるようになった。

●デザインのポイント

「どこに」
ワンピース生地の全体。

「どのように」
インド古来から愛されるペイズリー柄とサイケデリックな色彩を掛け合わせたデザインを刺繍やビーズなどの手工芸の良さを活かした方法で表現します。

●素材

オーガニックコットン

●アピールポイント

ペイズリー柄×サイケデリックな色彩によって新たな価値観を示し、人々の欲求を満たすことで気分も高揚して外出が増え、更なる日暮里町の活性化に繋げたい。

名前　若松　亜衣

●シーン設定

新型コロナウイルスの影響で換気の良い屋外でのイベントが増え、それにともないファッションにおいても屋外で映える素材や色づかいのものが増えた。

●デザインのポイント

「どこに」

素材、色使い

「どのように」

リサイクルポリエステルの素材を使い、晴れた空の下で映えるような色づかいにした。

●素材

リサイクルポリエステル

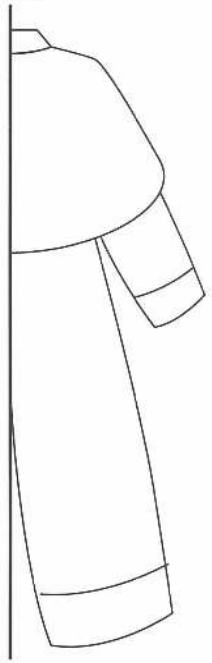
●アピールポイント

鮮やかな色使いでも大人っぽいデザインになるようにした。

bouquet

ウイルス感染拡大により、外出やパーティを控えなければならなくなり、閉塞感漂う世の中。
そこに必要なのは、ハッピーな気持ちになれてストレスを溜め込まない解放的なファッションだ。
花束のような、ハッピーな気持ちの溢れる刺繍柄をセットアップに落とし込む。

B.S



名前　社本　七菜

●シーン設定

ウイルスにより、外出を控えるようになってから世の中には閉塞感が漂っている。ファッションにおいては、ハッピーな気持ちになれて開放的な洋服の需要が高まっている。

●デザインのポイント

「どこに」

柄、シルエットに。

「どのように」

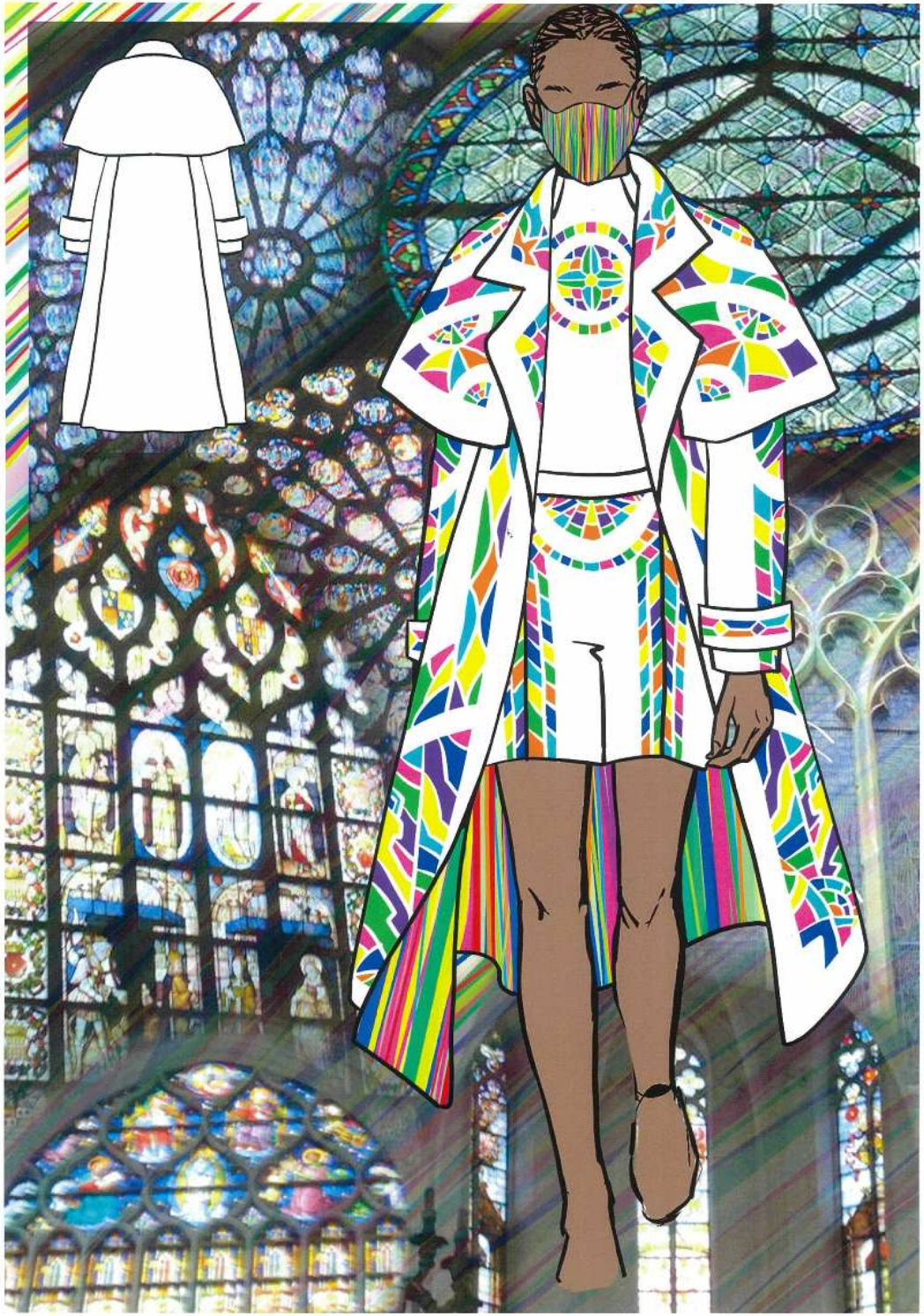
気分の上がる花柄と色を、お出かけの服装として決まりやすいテーラードのセットアップに落とし込んだ。ゆったりとしたシルエットで楽に着ることができる。

●素材

ポリエステル

●アピールポイント

テーラードカラーや袖口、すそへの柄の落とし込み方を工夫した。



名前　西科　友理恵

●シーン設定

換気の良い屋外でのコミュニケーションの機会が増え外で映える服が必要とされていくと考えました。

●デザインのポイント

「どこに」

全体の色柄と形。

「どのように」

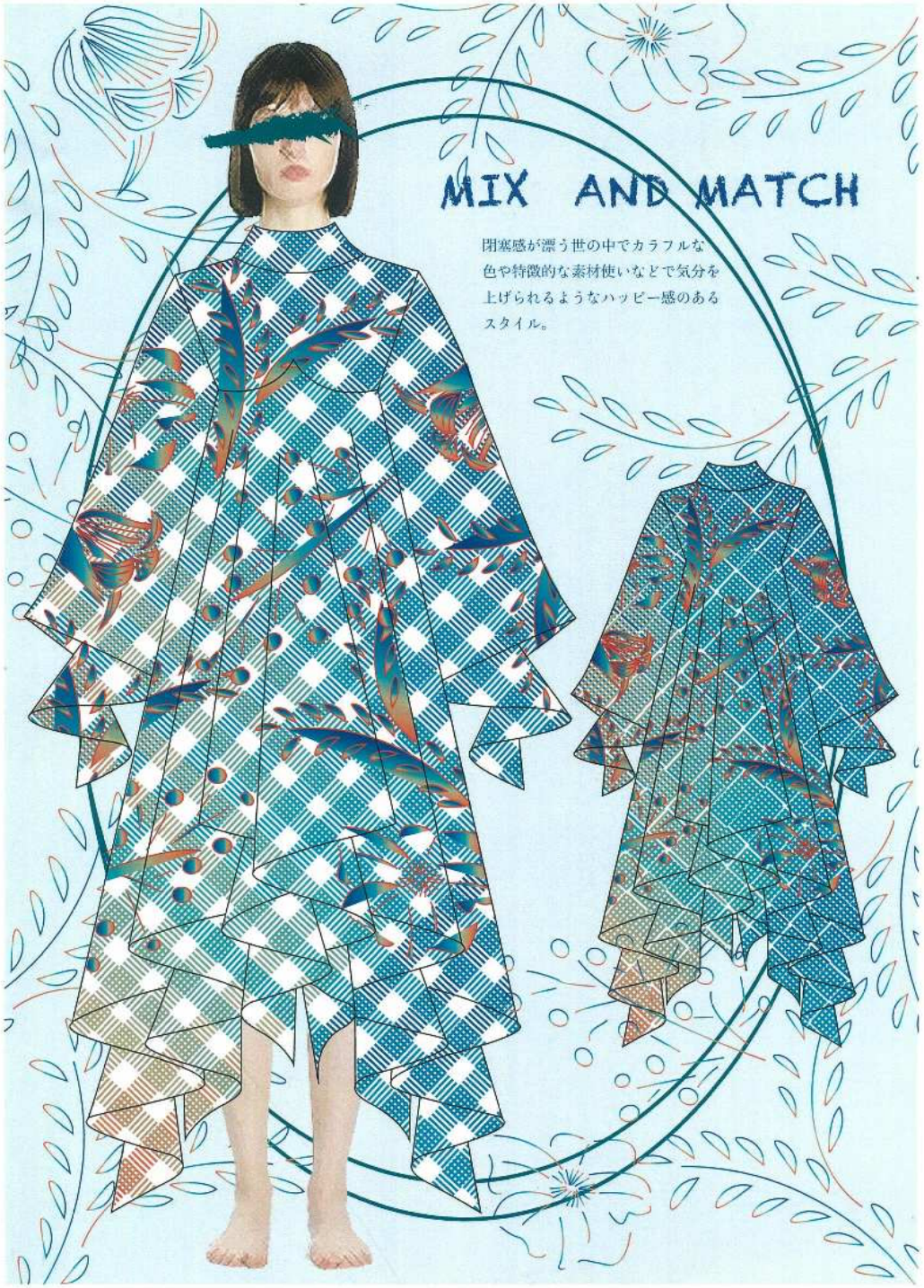
カラフルで元気な色、白ベースで光を拡散するイメージの柄。軽やかさのあるスタイリングで表現しました。

●素材

環境に配慮したペットボトルリサイクルの生地に昇華プリントでステンドグラス柄をはりつける。

●アピールポイント

華やかで元気な見る人も着る人もチアアップする色柄、軽やかなショートパンツで動きやすいデザインにまとめた。



名前　鳥山　理央

●シーン設定

閉塞感が漂う世の中でカラフルな色や特徴的な素材使いなどで気分を上げられるようなハッピー感のあるスタイル。

●デザインのポイント

「どこに」

柄。

「どのように」

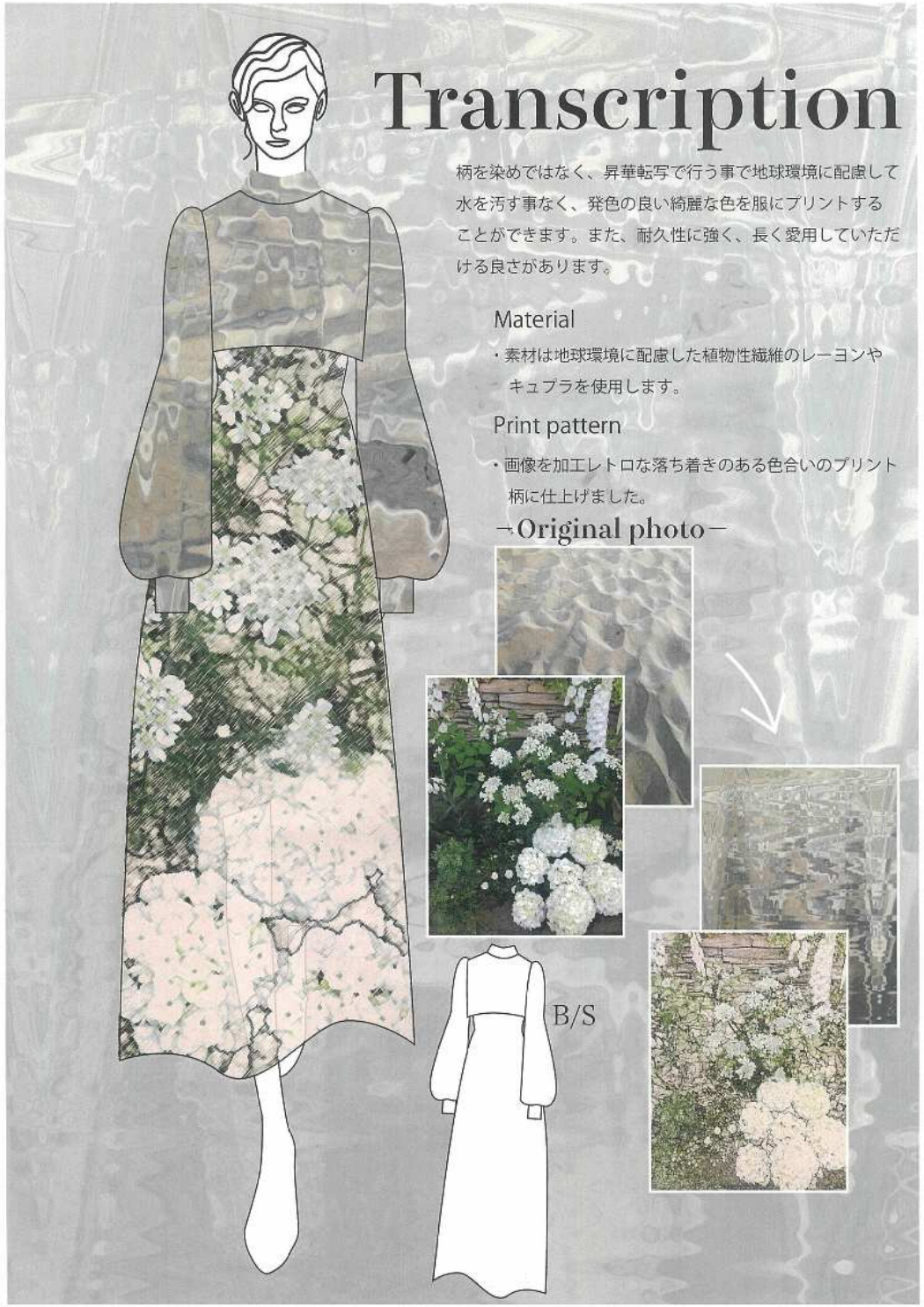
さわやかな色合いと植物でナチュラル感ときれいな色で気分を盛り上げる。

●素材

エコペット

●アピールポイント

一枚でサラッと着られるデザイン。



名前　三枝　朋佳

●シーン設定

地球温暖化が加速していく中で、地球環境に配慮した素材を使用した衣服が必要とされている。

●デザインのポイント

「どこに」

ワンピース、トップス

「どのように」

素材に植物性繊維のレーヨンやキュプラを使用。

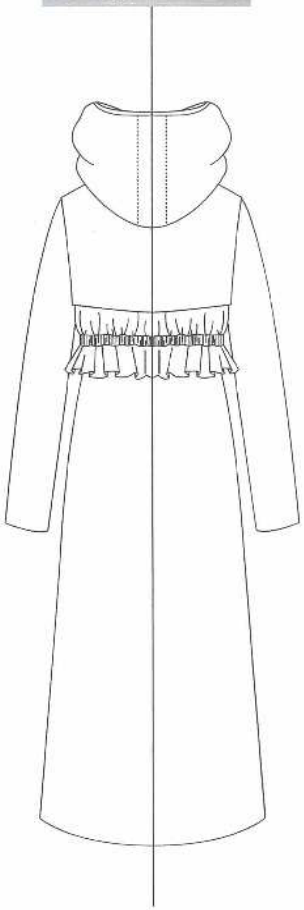
●素材

レーヨン、キュプラ

●アピールポイント

柄を染めではなく、昇華転写で行うことで、地球環境に配慮し、発色の良い色合いと耐久性で長く愛用していただける洋服。

PROTECT



名前　松田　紗英

●シーン設定

新型コロナウイルス感染症を経て、自分の身は自分で守る、という予防意識が非常に高まった。急に私たちの視界に現れ始めた防護服をモチーフに切り替えラインを用いた護る服を提案。

●デザインのポイント

「どこに」

服全体。

「どのように」

切り替えのライン、パイピング。

●素材

抗ウイルス加工が施された生地

●アピールポイント

場面によって衿を立てたり寝かせたり、フードをかぶったりと防護機能を使い分ける。

名前　多田　野愛

●シーン設定

柔らかい素材感、着心地を求め、男女問わず着用できるユニバーサルデザインに目を向けサステナビリティを意識した自然あふれる衣服が世の中に増え始めた。

●デザインのポイント

「どこに」

男女着用できるボリュームたっぷりのワンピースにシンプルな色遣いのプリント柄を衣服全体に落とし込む。

「どのように」

自然環境に優しい転写プリントを活用しインナー、トップス、ボトムスすべてのパーツに一体化するようなデザインをプリントする。

●素材

綿、麻。プリント柄を施す。

●アピールポイント

植物の淡い色使い個々の自由に動く姿からインスピレーションを受け自然が循環するような円をモチーフにオリジナル柄を落とし込みました。

名前　茶谷　愛理沙

●シーン設定

コロナ禍により、閉塞感の漂う世の中ではカラフルな色使いで明るい気持ちになれるスタイルが求められるようになりました。また、動きやすい快適な衣類の需要が高まり、リラックスできるかつ外出可能なファッションが生まれました。

●デザインのポイント

「どこに」

動きやすくリラックスできる外出可能なデザイン。カラフルな色使いと自然の柄でポジティブなパワーを取り入れる。

「どのように」

自然の植物から発せられるポジティブなパワーを柄に落とし込む。肌触りのいい素材で着心地の良さを追求する。

●素材

環境に配慮したリサイクルポリエステル

●アピールポイント

オリジナルのプリント柄の上に刺繍を組み合わせる。リラックスウェアでもあり外出可能なデザイン。

名前　若原　匠吾

●シーン設定

少しづつだが気持ちよく外に出られるようになった今、思い立った時に簡単に１着を被って、風を感じながら歩ける、そんな想定の１着。

●デザインのポイント

「どこに」

散歩に、ショッピングに。

「どのように」

新鮮な気持ちで。

●素材

再生ポリエステル

●アピールポイント

コロナ禍でも流行したミリタリーのアイテムであるトレンチコートをベースに新しいデザインでありながら着やすさ、親しみやすさを意識した。

Crafttman

職人さんが仮縫いの時に施す手縫いを
デザインに取り入れました。
肩パットを入れたサイズ感もメンズ
よりなシルエットですが、花柄の
プリントを施すことで
レディースでも着れる
ユニセックスデザインを
提案します。

名前　園田　飛竜

●シーン設定

閉塞感が漂う世の中でカラフルな色や特徴的な素材使いなどで気分を上げられるハッピー感のあるスタイルが必要とされた。

●デザインのポイント

「どこに」

広い会場で行われる同窓会で。

「どのように」

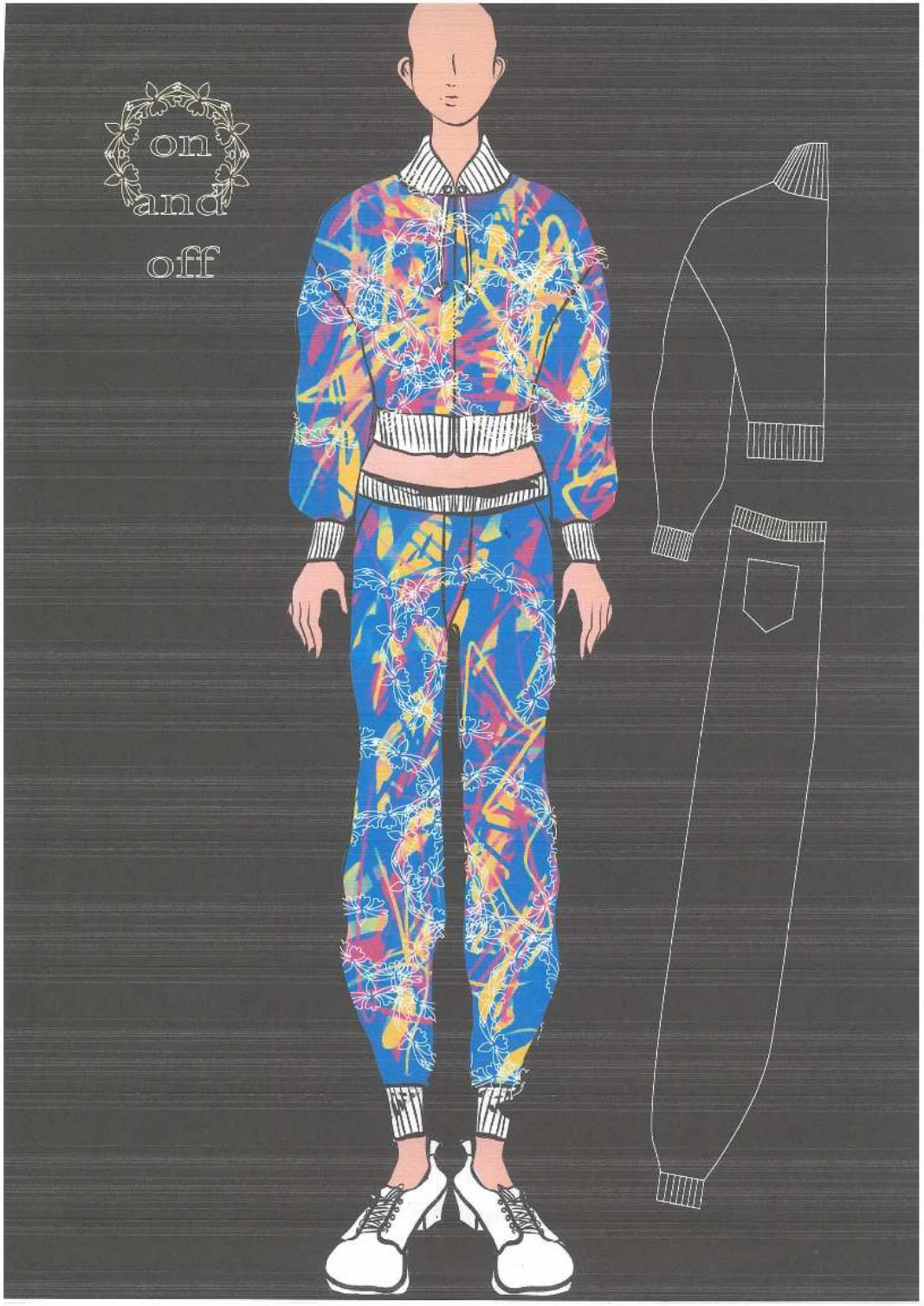
久々に会う友人に褒められる様な服。

●素材

ポリエステル

●アピールポイント

柄を用いたユニセックスのジャケットをデザインしました。



名前　芋生　真子

●シーン設定

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの人の勤務形態はリモートワークになった。一見、自由なライフスタイルであるが、仕事と生活の差を感じにくくなったとも言える。そこで、気持ちのオン・オフの切り替えスイッチとなるワークウェアが必要とされている。

●デザインのポイント

「どこに」

オンとオフの切り替え：えりや袖を取り外すことができる
サスティナブル：最小限の用尺・水を使わないプリント

「どのように」

えりや袖などのディティールパーツをかえることで、オンとオフの切り替えを表現。また、柄合わせが簡単な柄を考案したり、マーキングを工夫することで用尺を最小限にする。

●素材

ポリエステル

●アピールポイント

仕事と生活の差を感じにくくなったリモートワークの中で、気持ちのオン・オフの切り替えスイッチとなる新しいワークウェア。

MOROCCAN RUG

名前　東谷　百花

●シーン設定

新型コロナウイルスの影響により、外出の制限や目に見えない恐怖、経済情勢の悪化等社会全体に閉塞が漂った。それに伴いよりポジティブなイメージのあるスタイルが必要とされた。

●デザインのポイント

「どこに」

コート全体に施す。

「どのように」

モロッコに住むベルベルの人たちは家事の合間、家族のために絨毯を織った。「健康」や「邪気から守る」などの想いのある模様を織り込んだ。それを防寒具として着たり、掛布け団として使用したり、飾りとして壁に掛けたりしていた。
そんなモロッコのラグをイメージさせるようなステッチ、切り替えを大胆に施し、家の中では華やかに家を彩り、外では自分に自分を与え、温かく身を守ってくれるようなデザインにする。

●素材

天然由来の素材を用い環境問題にも積極的に取り組むモロッコのナチュラルなテイストも表現する。

●アピールポイント

モロッコラグの特徴的な柄の表現方法。

名前　光成　雄大

●シーン設定

自宅にいる時間が増え、自分が来ていて心地の良いデザインになった。トレンド→良い物、トレンドを気にしない傾向に。

●デザインのポイント

「どこに」

服全体に。

「どのように」

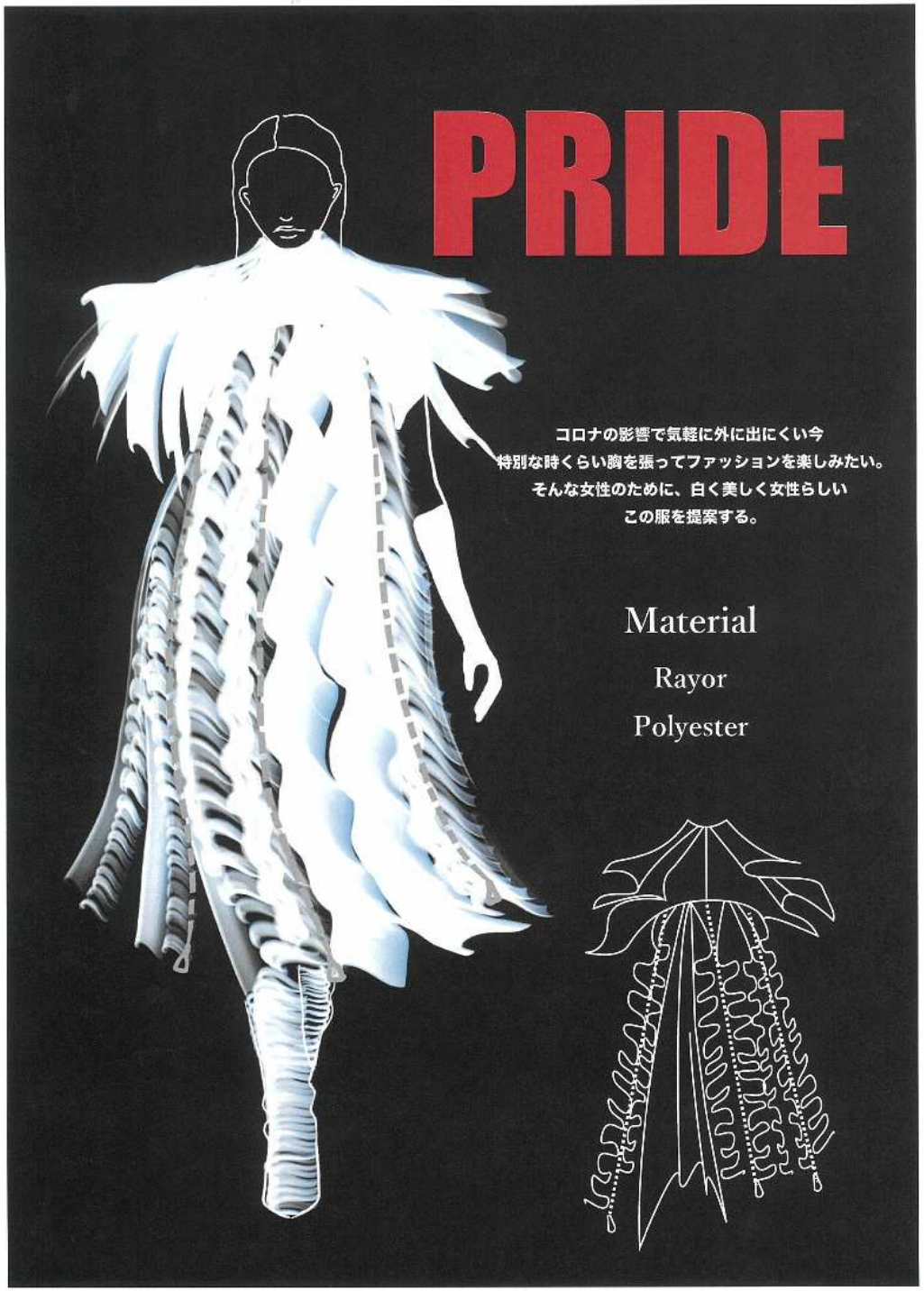
リラックス出来るようにゆとりを持って作ります。

●素材

ポリエステル、ポリウレタン

●アピールポイント

素材をのびる様にして分量をとる事でシルエットを出す様にしました。



名前　古屋　匡基

●シーン設定

コロナの影響で気軽に外に出にくくなり、外でオシャレを楽しむ機会が減った。
特別な時くらいオシャレを楽しみたい。

●デザインのポイント

「どこに」

服全体に。

「どのように」

白で、柔く女性らしく、胸を張って歩けるように。

●素材

ポリエステル、レーヨン

●アピールポイント

オシャレを楽しみたい女性のために、美しく、特別な時に着たいと思うようなデザインにしました。

名前　寺西　瑠菜

●シーン設定

リモート会議やリモート飲み会など家ですごす時間が多くなった。そんな時でもルームウェアだけではなく、おしゃれに過ごせる服が必要だと思う。

●デザインのポイント

「どこに」

デザインと素材

「どのように」

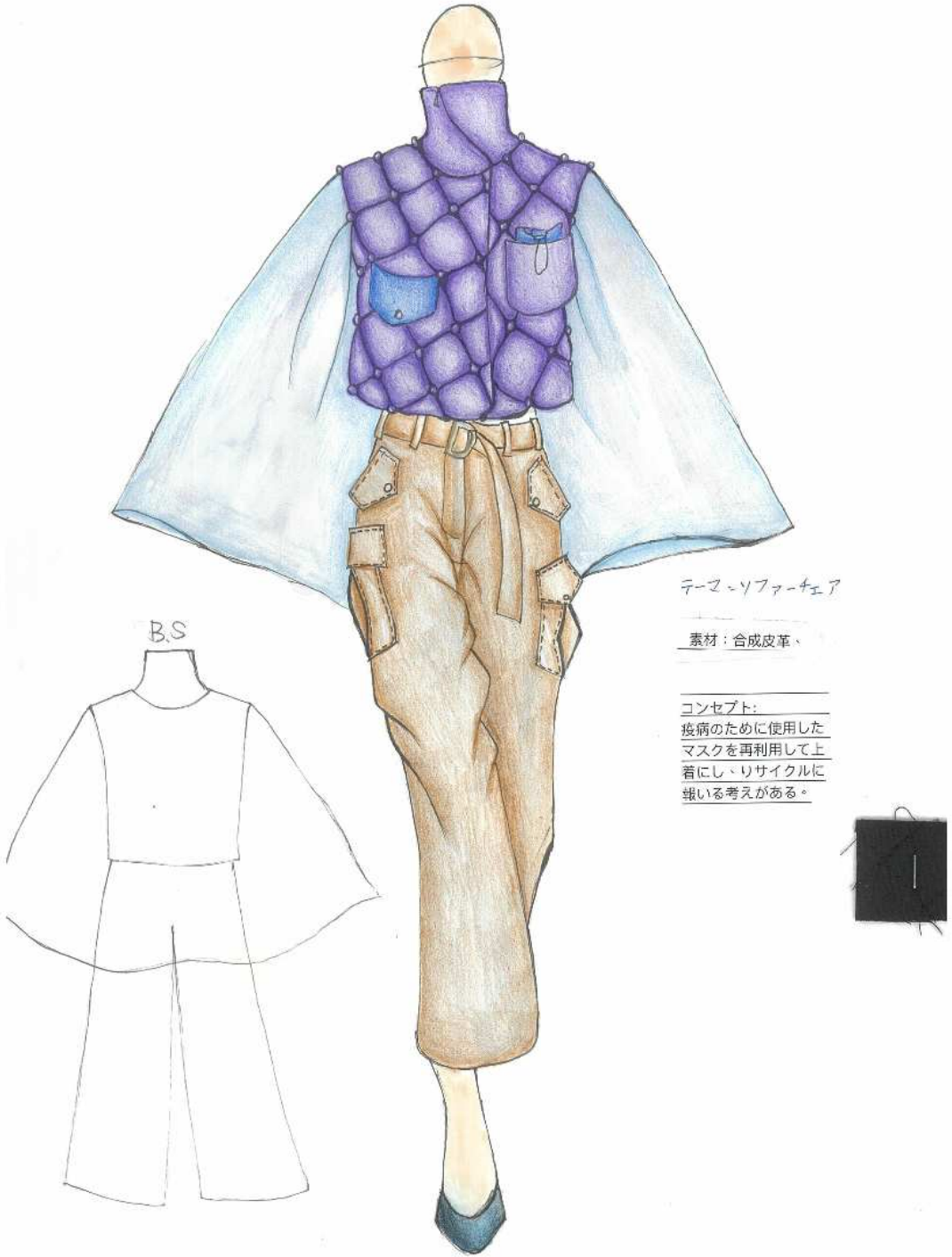
着心地の良さを重視したやわらかな素材にスモッキングで締め付けすぎず適度な緊張感を持たせて部屋着には見えないデザイン。

●素材

パイル生地、アンティークサテン、ポリエステルシャー

●アピールポイント

『モネの家の庭　アイリス』をモチーフに温かみと自然が感じ、着用すると心地よいデザイン



名前　林　欣

●シーン設定

新型コロナウイルスの流行により、外出が制限されたり、目に見えない恐怖を感じたり閉塞感が漂うようになった。そんな雰囲気を少しでも明るくするような洋服が必要。

●デザインのポイント

「どこに」

ワイドパンツとストッキングとタンクトップ

「どのように」

使用済みのソファ布を使って衣装に利用しています。

●素材

合成皮革、ポリエステル

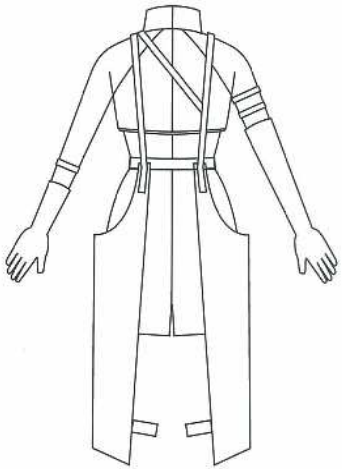
●アピールポイント

ソファ布と軽い素材感で着ても見てもタンクトップかわいいです。

さあ、出かけよう。

昨今のコロナ事情は、少しずつ改善に向かっている。
しかしまだ旅行は自粛、移動する時に使う公共機関は少し怖い。
そんな今に、怖いと思う気持ちを気にせず好きに遠出のできる
旅行着風スポーツウェアを提案。
手首のスナップボタンで着脱できる手袋は、電車の手すりなど
を触ることに抵抗をなくし、かつ指先にはサックを付けることで
スマートフォンの操作も可能に。
また、動きやすさ、機能性を考えニット素、ポリエステルを使用。

B.S



名前　亀井　雪

●シーン設定

外に出て活動すること自体がタブー視され、家で過ごすと仕事をすることが良いことであるという風潮が主流になっています。それを踏まえて、部屋着などインドアな活動を前提とした服の需要が高まっています。

●デザインのポイント

「どこに」

こんな時だからこそ、感染対策をしっかりとして旅行、外出など遠出をするための服を考えました。

「どのように」

アームカバーをすることで、それを基軸に動きやすいだけでないスポーティスタイルの服を提案します。ただスポーティにするだけでなく、収納を多くすることで荷物を入れて動き回れるようにしました。

●素材

ストレッチトロピカル

●アピールポイント

アームカバーは取り外しも可能になっています。また、最近のマスクは不織布でないといけないという場所が多いので、そこはデザインに入れないようにしました。

名前　舛冨　光

●シーン設定

日常で着てほしい。

●デザインのポイント

「どこに」

身頃全体。

「どのように」

使い捨てのレインコートやシーチング、レースを使った点。

●素材

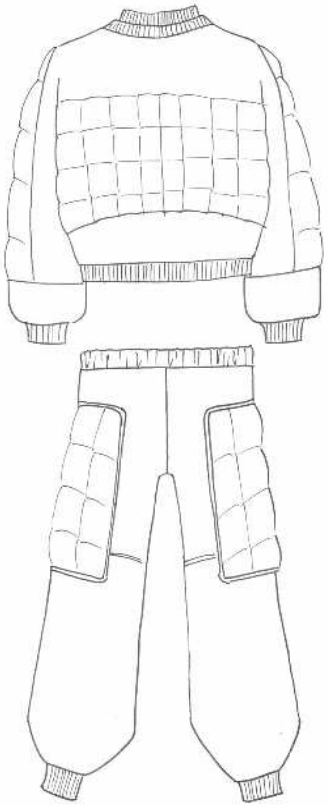
使い捨てのレインコート、シーチング、レース。

●アピールポイント

全て捨てられるはずだった素材を組み合わせてデザインしたこと。

キャンプ

いつどこで何が起こるかわからない時代、人々の消費は所有から利用へと変わりつつある。
家もまたその例外ではないのだろうか。定住せず移動しながら生活することを考えた動きやすく防寒性に優れたレジャーウェアを提案。



名前　光村　公寿

●シーン設定

感染に対する恐怖から都会ばかりできゅかを楽しむのではなく自然の中で安らぎを得ようと街着とレジャーウェア、ファッション性と機能性を両立した服が必要とされている。

●デザインのポイント

「どこに」

服全体に。

「どのように」

一着であらゆる天候や気温に対応できるように着脱や変形が可能なパーツになっている。雨風をしのげる自然に適した素材を使いながらも、着脱による通気性の確保と見た目の変化も楽しめるようになっている。

●素材

ポリエステル、ナイロン

●アピールポイント

自然の中でも快適に過ごせる機能性と見た目を両立したレジャーウェアになっている。

名前　木部　凪紗

●シーン設定

新型コロナウイルスの流行により様々なことが制限された。自分だけの唯一無二なファッションで気分を上げる服。

●デザインのポイント

「どこに」

ジャケット全体。

「どのように」

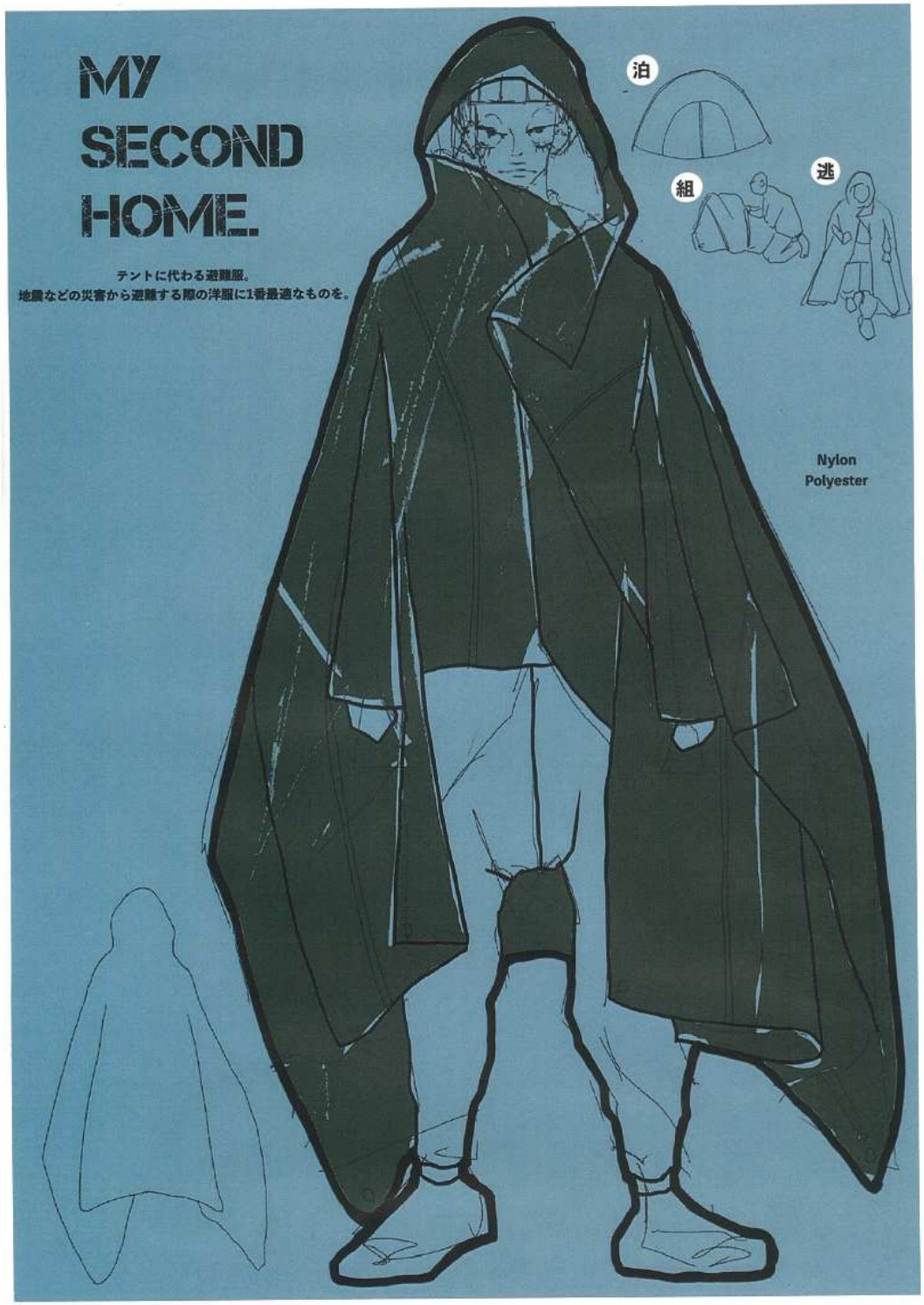
大好きな服をかけていく自分だけのクローゼットのように、ジャケットのスナップボタンのところに好きなディティールを付けていく。

●素材

ウール、ポリエステル

●アピールポイント

自分だけのクローゼットを纏う楽しさを提案します。



名前　山野　有彩

●シーン設定

洪水、地震といった様々な自然災害に備えたデザイン。

●デザインのポイント

「どこに」

アウターの身頃全体。

「どのように」

テントに代わる防護服。これを着て逃げる。そして組み立てればテントとして泊まることが出来る。

●素材

ナイロン、ポリエステル

●アピールポイント

いざという災害時に着用するだけで少しでも困らない為に。通気性や撥水性にも考慮したデザインで自分の第二の家を。

About Love

コロナ禍になり、家族との時間、何気ない日常の大切さを改めて実感したことから、ずっと一緒にいる家族間でしかわからない感覚についてフォーカスした。
長年一緒にいるからこそ、他人にはわからない何気ない行動や言葉でも通じてしまうものに視点を向け、それを幾何学模様と独特なシルエットで表現した。

素材　：麻、綿など

名前　吉田　佳祐

●シーン設定

何気ない日常。大切な人との時間が増えたことで、家でも、外でもリラックスしていながらお洒落なものの需要が増えた。

●デザインのポイント

「どこに」

プリント柄、素材感

「どのように」

長い間一緒にいる人との独特な空気感

●素材

綿、麻など

●アピールポイント

長い間共に寄り添う人にしかわからない空気感をファッションで表現した。

名前　鈴木　静花

●シーン設定

新型コロナウイルスによって外出制限、会話の制限など色々な制限にしばられてとても窮屈に過ごさないといけなくなってしまった。

●デザインのポイント

「どこに」

ワンピースの形。

「どのように」

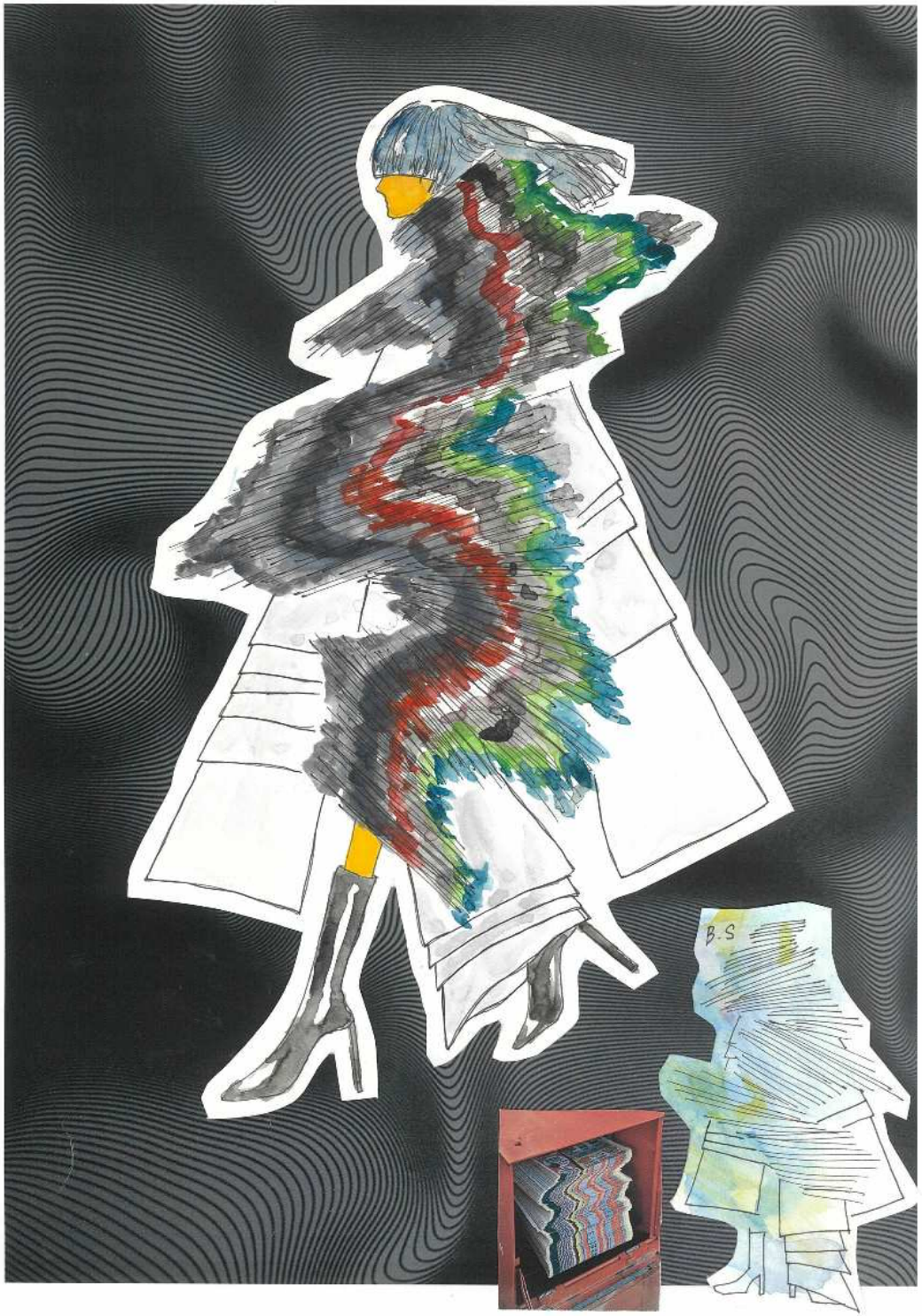
ボリュームをつけ、布がたまっている＝ストレスがたまっている、のように表した。

●素材

綿１００％

●アピールポイント

日暮里の繊維街をイメージしたくさんの柄の布とコロナウイルスによってふくらんでたまっていった不満をワンピースにおとしこみました。



名前　佐藤　紬

●シーン設定

多様性が重視されている世の中になり、今までは周りに合わせることが常識だったが、自分自身と周りとの「ズレ」を個性としてさらけ出すことができるようになった。

●デザインのポイント

「どこに」

体のラインが歪んだようなシルエットにしたい。

「どのように」

幾重にも折り重なった布を不規則にずらすことにより生まれる形や模様がある他人とのズレを強調し、自分自身として形成していく。

●素材

ポリエステル

●アピールポイント

心の中や外見などのズレを表現した布の重なりと、それにより生まれるシルエットと模様。

名前　小栗　美幸

●シーン設定

自分で考え、自分で作ること。
コロナで外界に接することを控えた結果、感じた結果と言えましょう。

●デザインのポイント

「どこに」

ツイード調のネップ素材をフェミニンに
使用してみました。

「どのように」

フリルには軽い糸が通常であるが重量感を出す目的に使用。

●素材

梳毛糸、意匠糸の組み合わせ

●アピールポイント

意匠糸の特色を活用。更に変化を出す為にかぎ針を加える。